



40年前、香港に初めて足を踏み入れて以来何度か訪れる機会があった。中国風、英国風、加えて日本語もちらほら見かけ、雑然としてはいるが不思議な魅力を持った街という印象だった。

19世紀のアヘン戦争などによって清王朝が敗北し香港は英国の植民地となった。1898年、滅亡寸前ではあったが清朝と

英国とで99年後に返還という租借の契約がなされ、1997年、英国から共産党支配の中国にきちんと返還された。99年前の中国は清朝であり現国家とは全く違うものだが、中国の強い要請を英国が受け入れた結果だ。もし英国が契約した相手と違う、として拒否した

香港



草野 義輔

ら中国はどんな対応をしただろうか。返還の半年前にも訪れる機会があった。鄧小平の巨大な看板を見ながら初めて深圳に入った。深圳は中国であったがバスガイドはミニスカート、逆に香港のガイドは地味な服装でそのギャップは面白かった。香港のガイドは元紅衛兵で文化大革命後、香港に逃げてきたもの。中国返還が半年後でお金持ちは海外に逃げ出している。自分も行きたくないがお金がない、と身の上話を始める始末。香港人は返還に大きな不安を抱いていた。

「一国二制度」を50年は維持する、との約束は今回の香港国家安全維持法でほごにされた。99年後を守った英国。50年の約束を守らない中国。もう香港には、多分行かない。

(昭和学園高校理事長・日田市)